



京都教区時報



カトリック京都司教区
 広報委員会
 京都市中京区
 河原町通三条上る
 TEL 075-211-3025
 FAX 075-211-3041
 honbu@kyoto.catholic.jp

<https://www.kyoto-catholic.net/>




主のご降誕のお喜びを申し上げます



「自分には使命があるのですから」。
 シノドスで取り入れられている「霊における会話」の自由さもそこにあるのかもしれない。ある事柄について一人ひとりが感じることは様々です。その違いを評価するのではなく、まず聞くことに集中し、次の自分の発言の機会にはそこから自分の感じたことを発していきま

す。聖霊からの促しに信頼して、他者に対して威圧しようとか、好印象を見せようとか、そういうことは抜きにして、安心した空間の中でより透明な自由な対話ができるように思います。現実生活の中でそんな対話がなされているで

最終回 「霊における会話」の できる場としての教会



2024年 司教年頭書簡
 わたしのシノダリティを創ろうII
 シノドスがめざす〈道〉と〈宿〉の宣教
 を受けて

まず聞くことに集中し、次の自分の発言の機会にはそこから自分の感じたことを発していきま

す。聖霊からの促しに信頼して、他者に対して威圧しようとか、好印象を見せようとか、そういうことは抜きにして、安心した空間の中でより透明な自由な対話ができるように思います。現実生活の中でそんな対話がなされているで

しようか？
 家族との対話、職場の同僚との対話、教会の人々との対話…どんな対話をしていくか振り返ってみると、気づきがあるかもしれません。自分



互いを尊重しながら存在している、シノダリティのあらわれのようにも思われた鳥たちの群れ（琵琶湖にて）

援助修道会 古屋敷一葉



2025年聖年

「希望の巡礼者」を

迎えるにあたって

カトリック京都司教 パウロ 大塚喜直

■聖年(ジュビリー・イヤー)の恵み

カトリックの聖年の起源は、旧約聖書レビ記第25章の「ヨベルの年」にあり、ユダヤ教で50年ごとに土地返還や奴隷解放が行われる特別な年でした。カトリック教会では、この精神を受け継ぎ1300年に教皇ボンファティウス8世が最初の聖年を制定しました。その後、すべての年代の人が生涯に1回でも聖年を体験できるようにと、聖年は25年ごとに祝われるようになり、信者にとって特別な恵みの時期とされています。

聖年は本来、回心を促すための期間です。教会は聖年を通じて、罪のゆるしにともなう償いの免除である「免償」を豊かに提供してきました。一定条件を満たすことで全免償を受けられ、巡礼や祈りを通じて信仰を深めることができます。教会全体で祝われる聖年は、信者同士の絆を強め、一致を促進する機会にもなります。

■2025年の聖年公布の大勅書

教皇フランシスコは、来たる2025

年の通常聖年のメッセージを「希望の巡礼者」とし、2024年5月9日に聖年公布の大勅書を発表しました。パウロのローマの信徒への手紙にある「希望はわたしたちを欺くことはありません」(ローマ5・5)という一文で始まる冒頭で、教皇は次のように述べています。

「希望のしるしにおいて、使徒パウロは希望のしるしの名のもとに、ローマのキリスト教共同体に励ましを与えます。：わたしたちは聖年を過ごすためにローマを訪れる人たちと、使徒ペトロとパウロの町に行くことがかなわずとも部分教会において聖年を祝う人たち、そうしたすべての希望の巡礼者のことを思います。すべての人にとって聖年が、救いの『門』である主イエス(ヨハネ10・7、9参照)との、生き生きとした個人的な出会いの時となりますように。教会は、主イエスを『わたしたちの希望』(1テモテ1・1)として、いつでも、どこでも、すべての人へのべ伝える使命を持っています」。

教皇は信者が神の愛と希望を再確認し、受刑者には希望を、病者には慰めを、青少年には支えを、難民・移民には安全と教育の機会を、高齢者には他世代との絆や理解を、そして貧しい人々への関心を高めるきっかけとなることを期待しています。

■希望のしるし

聖年のロゴの4人の人物は、地球の四方から集まってきた全人類を表現しています。4人が抱き合う姿は、すべての民を結びつける連帯と友愛を示しています。先頭の人物は十字架、すなわちキリストをつかんでいます。4人の足元には人生の旅に立ち向かう困難の波が押し寄せていますが、長く伸びた十字架が希望のシンボルである「錨」となり、信仰の旅を続ける巡礼者を支えています。

教皇は、聖年を「時代のしるし」を読み取る機会としつつ、わたしたちが悪と暴力に負けたと思いつつ、今日の世界にある善に目を向けようと促しています。そのため、「時代のしるし」を「希望のしるし」に変え、神の救いを求める心の願望を抱えながら進むよう呼びかけています。

教皇は、戦争や紛争が終結し、平和がもたらされ、お金を武器の調達や戦費に費やさず、飢餓をなくすための世界基金のために使うことを提案し、同時に、債務の返済が不可能な貧しい国々への債務帳消しを呼びかけています。そして、「わたしたちが持っているこの希望は、魂にとって頼りになる、



安定した錨のようなもの」(ヘブライ6:19)という言葉を示しつつ、わたしたちに贈られた希望を決して失わず、神の中に拠り所を見いだしながら、それをしっかりと保つように励ましています。

■聖年の開幕と「聖なる扉」

(ホルタ・サンタ)

聖年には、巡礼者がローマの教皇直属4大聖堂を訪れ、通常は閉じられているが聖年にのみ開かれる「聖なる扉」を通る伝統があります。これは、イエス・キリストが神との交わりの門であり、御父への「道・真理・いのち」であるという教えから来ています。聖年に「聖なる扉」を通る巡礼者は、新しいいのちを生きたるために「イエス・キリストは主である」と告白し、罪のゆるしを思い起こします。2024年12月24日(火) 主の降誕の前日、聖ペトロ大聖堂の「聖なる扉」が教主によって開かれ、聖年が開幕します。次いで2024年12月29日(日) 聖家族の祝日に、ラテランの聖ヨハネ大聖堂で聖なる扉が開かれます。

京都教区では同日、大勅書の指示にしたがって、司教座聖堂である河原町教会で司教が聖年開幕のミサを捧げます。2025年1月1日(水) 神の母聖マリアの祝日に聖マリア大聖堂、1月5日(日) 主の公現の日に城外の聖パウロ大聖堂の「聖なる扉」がそれぞれ開かれます。

閉幕については、聖ペトロ大聖堂を除く3つの大聖堂の「聖なる扉」が2025年12月28日(日)に閉じられ、この日に部分教会においては聖年が終了します。次いで、2026年1月6日(火) 主の公現の日、聖ペトロ大聖堂の「聖なる扉」が閉じられ、2025年の聖年は閉幕します。

■京都教区の巡礼地

巡礼は聖年における基本的要素であり、教皇は来たる聖年においても「希望の巡礼者たち」が伝統的な、あるいは今日的な巡礼を通して、聖年を体験することを願っておられます。

京都教区の巡礼地は、京都司教座聖堂である「河原町教会」、「宮津教会堂」、「福知山教会」、「奈良教会」、「大津教会」、「鈴鹿教会」、「四日市教会」とします。病気や高齢で巡礼が難しい人は、聖体拝領やミサ、共同体の祈りに実際に参加するか、テレビやラジオを通して参加することで、聖年の免償を受けることができます。

■免償

わたしたちは人間的な弱さから罪を犯し、神への道から離れることがあります。注がれます。罪のゆるしは、通常「ゆるしの秘跡」を通して与えられますが、罪

の傷跡が取り除かれるために、司祭が奨める特定の祈りや善業といった「償い」が必要です。

免償とは償いを免除するもので、罪のゆるしではありませんので留意してください。一般に免償を得るためには、大きな罪のない、神と一致した心で免償を受けたという意志をもって巡礼を行い、ゆるしの秘跡を受け、ミサに参加し、信仰宣言を唱え、教皇の意向や教会、世界の善を願って祈ります。免償は、自分のためだけでなく、代願の形式でいつでも死者に譲ることができます。この代願は、この世を去った人々への愛のわざとして奨められています。

■むすび

2025年の聖年に向けて、教皇フランシスコは「希望の巡礼者」として歩むよう呼びかけています。京都教区のわたしたちも、信仰と希望を新たにし、神の愛を体験するこの機会に、個人においても、教会共同体においても、困難な時代であるからこそ希望を持ち、過去の過ちをゆるし合い、シノドスの精神をもって互いに支えながら、新しい一歩を踏み出す勇氣と力をいただきましょう。

なお、詳細については、カトリック中央協議会や京都教区の公式サイトをご覧ください。

正義と平和協議会 現地学習会
「大阪コリアタウン歴史資料館と
カトリック生野教会を訪ねる」

2024年10月14日(祝・月)、秋晴れの中、貸し切りバスを利用して大阪コリアタウンに向かった。予定より少し早く到着したため、歴史資料館の開館までコリアタウンを散策した。キムチやチヂミ、韓国の食材を並べる店、Kポップスターのグッズを

販売する店などがひしめき合っており、大勢の、おそらくあまり過去の歴史を知らない若者たちが買い物や食事を楽しんでいた。



館長の高正子(コ・チョンジャ)さんの説明

■大阪コリアタウン歴史資料館が作られた経緯

コリアタウン(生野区)はかつて「猪飼野」と呼ばれていた。元は、仁徳天皇治世の頃の古代日本において、朝鮮半島(百濟)から渡来してきた人たちが居を

構えたところ。天皇に献上する猪(豚)を飼っていたことによりこの地名がついた。

日本が朝鮮半島を植民地化していた1920年代(1910年〓韓国併合)、虐げられ困難な生活を余儀なくされていた人たちが、主に済州島から生活の糧を求めて、もともと所縁があり産業があるこの地へわたって住みついていった。宛先を「日本国猪飼野」と書いただけで済州島からの郵便物が届いたという。

1920年代は仕事を求めて男性が多く渡って来ていたが、30年代になると女性も増え、この地で結婚して子どもを持つようになった。家庭を持つと祖先祭祀を行うようになり、その時に欠かせない食材を求める人たちが、当時路地裏にあった朝鮮市場が大変にぎわうようになった。現在のメイン通りには公設市場も開設されていたが、戦争の終結によって解散。再度、メイン通りの中ほどに店が出た

が、世代が変わり祖先祭祀も縮小され朝鮮市場も衰退。日本の商店主も一緒に再興を検討する中で「チャイナタウン」のような構想が生まれ、「朝鮮市場」という名称を「コリアタウン」とすることで、厳しい差別意識から逃れられないかと考えた。

転機は84年。ロス五輪でキムチが選手

に提供され好評、そこから朝鮮半島の食文化が広がっていった。1993年

地域の活性化が施策化され、コリアタウン構想が採択された。

その後の韓流ブームも追い風になり、今年年間200万の観光客が訪れる一大観光地となった。

単なる観光地ではなく、コリアタウンができた歴史的な経緯も知ってもらいたいという願いから、2023年4月29日、コリアタウン歴史資料館が開設された。差別がなくなっただけではないため、将来にわたって継続した支援を得られる確証がないことから、公的機関には頼らずに賛同者の寄付によって作られた。

■資料館の展示内容

展示の特徴として、在日コリアンの知識がない人でも理解しやすいように、差別や植民地化といった、民族にとつてのつらい過去を起点として現在へと提示するのではなく、一定関係が落ち着いている現在から、過去へとさかのぼる形を



取っているとのこと。以下、主な展示の説明。

○在日コリアンの収集地のシンボルとしての「猪飼野」という地名がなくなったのは1970年。鶴橋、桃谷と改められた。地名を消すことで在日コリアンという存在を無くす意図を持った政策。

○戦後はヘップサンダル製造が盛況を極めたが、職に就けない在日コリアンたちの貴重な家内産業で成り立っていた。○2022年、初めて、祭りの山車の上に在日の人が乗ることができた。

現在コリアタウンがある生野区は、在日の方たちだけではなくマイノリティも大勢おられる。障がい者施設や高齢者施設、作業所なども多い。また物価も安い（つまり経済的に貧しい方でも暮らしやすい）。昔、生野区の22パーセントはほぼ韓国人だったが、今は韓国人だけでなく、ベトナム、中国、台湾の方たちもおられる。私たちはダイバーシティの街を目指す。だからといって外国人差別がない訳ではないが、ありのままの自分で生きていける社会でありたいし、その成功モデルとしてこの資料館を提示している

カトリック生野教会にて

生野教会へ移動。政治犯救済の署名

活動で正平協とも接点がある李哲（イ・ Chol）さんが同席し、簡単な自己紹介をしてくださった。

1948年熊本県生まれ。東京の大学へ進学し祖国の歴史や言葉を学ぶサークルに参加。母国の言葉に直に触れたいと思ひ、韓国へ渡って大学院生となる。自由な思想をアカ（共産主義）とみなした当時の軍事政権によって北のスパイに仕立て上げられ投獄、死刑判決を受ける。13年の獄中生活を経て建国記念に当たる特別な祝いの恩赦で出所。日本に戻るからには、生まれ育った熊本ではなく、目覚めた韓国人として韓国らしいところで暮らそうと思ひ生野にやってきたとのこと。国家によって政治犯とされ投獄された同様の立場の人たちと共闘する運動を続けておられる。励ましてくださった金寿煥枢機卿さんから、あなたはキリストと同じ国家反逆罪で捕らえられたといわれたとき勇気がわいたとおっしゃっていた（著書に『長東日誌』がある）。

学習会を終えて

現在、一大観光地として賑わいを見せているコリアタウン。歴史資料館は、差別の歴史による負の感情にとらわれるのではなく、日本と韓国の良好な関係が今後長く続くようにと意図された展示であった。韓流スターの美しさや食事のお

いしさでつながる関係は本当に強固なものだろうか。そのうわべの装飾がなくなったとき、性懲りもなく朝鮮半島の人々に対する差別があらわになるのではないかと懸念される。

李哲さんは、

出所された後の住処に生野を選ばれた。私たちを歓迎してください。信徒の方々、担当司祭さん、また、暑さ厳しい日に下見に行ったとき、時間が行き違って待つ間を、急遽祈りの活動をされている涼しい部屋に通してください。信徒の方々を思い出すとき、初めて行ってもここで暮らしてもいいと思わせる懐の深さ、人々の温かさが生野にはあると感じる。ここで生きてきた人たちが被った差別の激しさ、その時の悔しさ、真実の生き様を知ることと同じ痛みを感じる生活者としてつながることが、共に生きるゆるぎない関係になるのではないかと思う。

正義と平和協議会 佐藤恵（九条教会）



オンライン聖書講座 2024年度報告

マルコ福音書を読む——まことのイエスと出会う——

今年の聖書講座は「マルコ福音書」

聖書委員会では、毎年さまざまなテーマで聖書講座を開講してきました。その時々テーマはひとつの切り口にすぎず、一貫して取り上げてきたことは、「わたしたちが、今、わたしたちとともに生きておられるイエスと出会う」ということです。



今回、初心に立ち返って、わたしたちがイエスと出会うための根本である福音書を取り上げ、まず今年は、共観福音書の中で最初に書かれたマルコ福音書を読んできました。講座のサブタイトルは「まことのイエスと出会う」です。教会の典礼暦年では、マタイ、マルコ、ルカ福音書が3年周期で読まれますが、ちょうど2024年はマルコが読まれるB年でした。

わたしたちのいのちを吹き込むのは、復活された、生きておられるイエスとの出会いです。神のみことばである福音書を通して、今一度、イエスとの出会いを見つめ直し、模索していきたいとの思いで企画しました。

多彩な講師陣

12名の講師は、日本各地の修道会司祭6名と、大塚司教をはじめ、京都教区内で働く司祭3名、そしてシスター2名にお願いしました。個性豊かな講師陣の示唆に富んだお話を伺い、豊かな時を過ごすことができました。YouTubeの録画配信ですので、配信時に視聴することができなくても、3か月間は視聴ができ、受講者の皆さまからはとても好評でした。

来年度の聖書講座

対面講座だった聖書講座を、コロナ禍以降、オンライン講座にシフトしながらにして講師のお話を視聴できるということ、嬉しいことに毎年全国各地から申し込みがあります。しかし、根強い対面講座のご希望もあり、講師の方々も、聴衆がいてくださる方が話しやすいとおっしゃいます。

コロナが落ち着いたこともあり、また京都教区の新しい地下ホールができたこともあり、来年度の講座は、対面講座とオンライン講座の両方で開催したいと考えています。

今年度2回、試験的に対面講座を開き、それを録画して後日配信しました。

反省点は多々ありますが、なんとか無事に配信することができました。

今年度の報告

今年度の受講者は231名でした。京都教区以外に全国12教区から、また信徒でない方や海外からの受講もありました。教区外の受講者が多いので、教区内の呼びかけに、もう少し力を入れたいと思っています。

この12回の講座を通して、わたしたちの日々の生活の場である「ガリラヤ」で、イエスと歩みをともしながら、「イエスとは誰か」を問い続け、まことのイエスと出会うことがどのようなことであるか、少しでも気づいてくださったなら幸いです。

この報告を読んでくださった皆さまも、来年度は受講生となっていただき、ともに学ぶことができると希望しております。

京都司教区聖書委員会

2024年度 京都司教区オンライン聖書講座

マルコ福音書を読む

—まことのイエスと出会う—

配信日	テーマ	講師
1 5/16	マルコ福音書を読む(序)	大塚 善雄 京都司教区司祭
2 5/30	はじまり 洗礼と復活	藤村 豊成 聖マリア修道会司祭
3 6/13	イエスと民衆	吉屋敷 一策 練馬聖公会司祭
4 6/27	イエスと税関の人たち	中川 博雄 大塚司教区司祭
5 7/11	イエスと弟子たち	山本 久美子 聖マリア修道会司祭
6 7/25	ガリラヤからエルサレムへ	柳川 義洋 大塚司教区司祭
7 8/12	人の手の歩む道	一橋 桂 マリア会司祭
8 9/26	エルサレムにて	眞 隆一郎 大塚司教区司祭
9 10/10	イエスの受難	エリイオ フォルモトゥール アドルフ聖公会司祭
10 10/24	イエスの復活と聖壇	森 耕一 神本聖公会司祭
11 11/14	マルコの神の国	元村 泰樹 京都司教区司祭
12 11/28	メシアの福音	鈴木 健一 聖マリア修道会司祭

カトリック京都司教区聖書委員会
TEL: 075-323-3139 (月-木 10:00-14:00) 9:00-12:00
www.kyotohokokyo.or.jp

小教区評議会役員交流会 報告

サイクルテーマ① 教会と福音宣教の理解

「シノダリティをよく表す識別の方法『霊における会話』の体験」
2024年9月28日(土)13:00~16:00 河原町カトリック会館大ホール

5年ぶりに対面での開催となった今回の役員交流会では、春の研修会で紹介された「霊における会話」を体験しました。

参加者は分かち合いのテーマ「2025年の聖年に希望の巡礼者の共同体としてどのような取り組みをするか」について、「わたしが希望しているよいものは何か」「希望の巡礼者の共同体としてその希望の実現を目指して、どのような歩みを始めたいか」という二つの側面からまず個人で祈りました。その後小グループに分かれ、ファシリテーターの進行のもと「平等の発言時間」「集中して聞くこと」「祈りと沈黙」を大切にしながら分かち合いました。全体会では一人ひとりの発言を付箋で貼りだしたシートとともにグループでの一致点や気づきなどが発表され、各グループで豊かな「霊における会話」が行われたことが伝わってきました。



参加者からは「一人ひとりに時間が与えられたことがとてもよかった」「発言した人の言葉を沈黙の時間に味わい、その人の人柄も感じられた」「違った角度からの意見にも共感することができた」との感想がありました。今後「霊における会話」の普及のためには「小教区での理解」「時間的余裕」「ファシリテーターの育成」などが課題としてあげられました。

福音宣教企画室

ロザリオの集い報告

10月5日(土)、西陣教会をお借りして、青年センターの1日企画であるロザリオの集いを行いました。1日企画とは、合宿に参加することが難しい方でも気軽に参加していただける日帰りのイベントです。毎年、10月の1日企画は、ロザリオの集いをしていのですが、今年のロザリオの集いは、より多くの青年と繋がることできるように、多言語でのお祈りを企画しました。

「どの言語でお祈りができるのだろう」と楽しみに当日を迎えましたが、なんと、フランス語、タガログ語、韓国語、イタリア語、ポルトガル語、インドネシア語、英語、日本語の8言語でお祈りすることができました！

まず初めに、神父様からお話があり、ロザリオとは、奉献すること、神様と繋がる祈りを手伝う道具であること、アヴェマリアの祈りを唱える際に、自分の願いでいっぱいになるのではなく、神秘を思い出しながら、「今の自分にとってこの祈りがどのような意味になるのか」を振り返ることを学びました。その後、ロザリオの祈りを行い、青年一人ひとりが今の自分と神秘を照らし合わせながら祈ることができました。

参加してくださった皆様、ありがとうございました！ 初参加の方も何名かいらっしやったので、これを機に青年センターのイベントに参加していただければ嬉しいです！

唐崎教会 池田瑠智亜





お知らせ



司 教

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



教 区

中学生会冬合宿

日 時：12月27日(金)～28日(土)

場 所：唐崎メリノールハウス

参加費：3,000円

問い合わせ：kyoto.chugakuseikai@gmail.com

申 込：上記QRコードの申込フォームより

小学生侍者会(従来の「侍者合宿」に替わる新企画)

日 時：12月21日(土) 10:30～15:30

場 所：西陣教会(京都市上京区新町通り一条上ル)

テーマ：「朗読と侍者」

対 象：小学4年生、5年生、6年生男女

問合せ：メールまたはFAX

shinko_kyouiku@kyoto.catholic.jp

Fax/075-223-3371

申 込：各小教区教育部がとりまとめて申込
詳細は教区HPでご確認ください。

司教座聖堂献堂記念日ミサ

日 時：12月3日(土) 10:30 河原町教会

小教区のクリスマスミサ

京都教区内の各小教区のクリスマスのミサ
につきましては、教区のホームページ「小
教区・ミサ」のタブよりご覧ください。

広報委員会

教区時報2月号の原稿締切日は12月9日(日)です。

下記までご連絡ください。

koho@kyoto.catholic.jp

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

12月8日(日) 14:00 聖歌練習

12月28日(土) 17:30 練習後、ミサ奉仕

場 所：河原町教会聖堂

団員募集中

問合せ：075-951-4283 則武 隆

コーロ・チェルステ(女声コーラス)

練 習：12月12日(日) 10:00

場 所：河原町教会2階楽廊

新会員募集中

問合せ：075-561-5971 駒井和子

聴覚障がい者の会・京都グループ

ミサ参加とクリスマス懇親会

日 時：12月3日(土) 10:30 ミサ

参加費：昼食代1,500円(飲み物持参のこと)

要申込

場 所：河原町教会聖堂とヴィリオンホール

申込・問合せ：Tel&Fax 075-723-1135 傳 裕子

心のともしび

ラジオ番組案内(全国34局で放送)

12月の主テーマ「待ち望む」

KBS京都 (日)～(金) 朝5:55

(土) 朝5:15

ラジオ関西 (日)～(金) 朝5:00

(土) 朝6:05

毎日放送 (日)～(金) 朝5:45

(土) 朝4:55



おわびと訂正

京都教区時報560号(2024年7月号)の「宮津洗者聖若翰(ヨハネ)天主堂国重要文化財指定記念ミサ」の記事につきまして

「宮津教会は1896(明治29)年、パリ外国宣教会のフランス人宣教師、ルイ・ルラブ神父の設計で建立され、今年で128年になりました。現役の聖堂としては、日本最古の聖堂です。」と記載しておりました。しかし、新潟教区のカトリック佐渡教会(旧・両津カトリック教会)が、明治20年に建てられ、築137年だということを知りました。通常の小教区としてミサなどが行われているカトリックの木造聖堂としては、宮津教会よりも古い聖堂です。

教区時報の文章を、宮津教会は「現役の聖堂としては、日本で最古級の聖堂のひとつです。」と訂正させていただきます。佐渡教会、宮津教会、いずれも日本海に面した場所にあり、120年以上にわたって信徒の方々の祈りに満たされてきた聖堂が、今後も守られていきますように。 広報委員会

皆さまのまわりに点訳版「京都教区時報」が必要な方がおられないでしょうか。点訳版「京都教区時報」をご希望の方がおられましたら、カ障連大阪フレンドリー点字部・笠松幸彦さんまでお申込みください。無料でお送りします。Tel・Fax/072-722-0271